

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 横地常広
編集責任者 深澤恵治
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

- P1 令和6年度 定時総会 全議案が承認されました
 P2～P4 国際協力事業報告 カンボジア臨床検査技師会との精度管理事業
 P5 「病棟業務とタスク・シフト/シェア推進」講習会を開催

令和6年度 定時総会 全議案が承認されました

令和6年6月22日（土）に開催された令和6年度定時総会は、出席正会員46,204名（有効正会員数68,797名、定足数34,399名、出席率67.1%）で成立するとともに、各号議案の説明と採決の結果、全議案に対して必要な議決権を超える賛成となり、すべての議案が承認されました。出席者の内訳は以下の通りです。議決権行使の事前受領は、電磁的方法が92.6%（前年度90.4%）、書面が7.4%（前年度9.6%）となり、電磁的方法による議決権行使が9割を超えて定着しました。令和5年度定時総会に比べると出席率は60.9%から67.1%に増加しているものの、前回定款の改定を行った令和元年の出席率72.4%に比べると、厳しい出席率となりました。

	有効電磁表決	有効書面表決	当日有効出席	当日有効委任	合計
出席者数	42,791	3,360	29	24	46,204
比率	92.6%	7.3%	0.1%		100.0%



選任された理事によるご挨拶

総会終了後に行われた令和6・7年度新役員で構成される理事会では、代表理事に横地常広氏、竹浦久司氏、西浦明彦氏、山寺幸雄氏の4名が選定され、会長候補者選挙当選者である横地常広氏が会長となり、残る代表理事3名が副会長となることもあわせて承認されました。また、代表理事以外に8名の執行理事が選定され、深澤恵治氏、小松京子氏を専務理事、神山清志氏、益田泰蔵氏を常務理事とする提案も承認されました。そのほかの執行理事としては、続任の宮原祥子氏、新任の桑原喜久男氏、原田典明氏、直田健太郎氏の体制となりました。また、常勤役員として、横地会長、深澤専務理事が指名されました。

国際協力事業報告

カンボジア臨床検査技師会との精度管理事業

Workshop of CAMT-JAMT: Focus on Accuracy Management with Regard to Morphology

カンボジアとの臨床検査の精度管理に関する活動は、日本臨床衛生検査技師会（JAMT）が取り組んでいる大きな国際協力事業の一つです。この事業は、カンボジア臨床検査技師会（CAMT）と協力し、臨床検査の質を向上させることを目指しています。特に生化学、血液学および微生物学的検査に焦点を当て、検査法や精度管理の実施を推進しています。本報告では、これまでの経緯と2024年6月に開催されたワークショップについて述べます。

JAMTは2017年から2019年の3年間、国立国際医療研究センターの医療技術等国際展開推進事業の一環として「カンボジア王国における臨床検査の質の向上事業」を実施しました。本事業はカンボジア臨床検査技師会（CAMT）、カンボジア国立公衆衛生研究所、カンボジア保健省などと連携し、生化学、血液学および微生物学的検査を中心に検査法や精度管理などを支援しました。また、本事業にはJAMT加盟医療施設、シスメックス、富士フイルム、栄研化学、島津ダイアグノスティクスなどの関連企業、検査センターのマイクロスカイラボも協力しました（下図）。

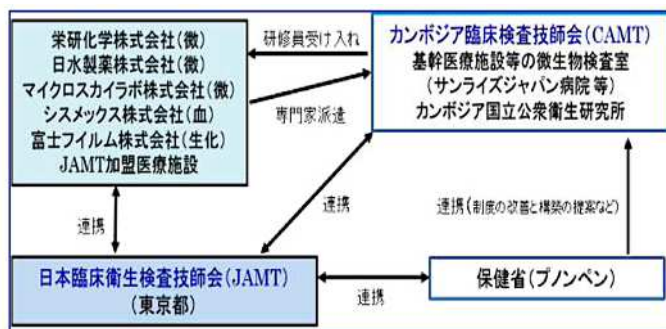


図 カンボジア王国における臨床検査の質の向上事業

2020年から2022年はCOVID-19のパンデミックにより現地での支援を断念し、Zoomやメールを通じて学術支援を続けました。その後、2023年1月に関連施設を再訪し合同会議を開催しました。会議では尿沈渣検査の普及をCAMTとして積極的に進めていきたい意向が示され、今回のワークショップのテーマの一つとして取り上げられることになりました。2023年は以下の大学、病院、検査センターを訪問しました。

1. University of Puthisastra、2. Khmer-Soviet Friendship Hospital、3. National Pediatric Hospital、4. Sunrise Japan Hospital、5. BIOMED Phnom Penh Medical Analysis Laboratory、6. SAMAKI MEDICAL LABORATORY、7. VS MEDICAL LABORATORY

これらの施設の訪問により、各施設での精度管理の現状を確認し、今後の協力の方向性を探ることができました。コロナ禍にあってもCAMTは本研修のカンターパートとなった臨床検査技師がリーダーとなり検査室の改修や検査機器、試薬の管理もしっかりと進められていることについても報告を受けました。

今回のワークショップはVansith CAMT会長からの要請で「Focus on Accuracy Management with Regard to Morphology」というテーマで開催されました。

5月30日から6月2日までの日程で、JAMTから長沢光章副会長（国際医療福祉大学）、片山博徳国際WG委員長（国際医療福祉大学）、三澤成毅国際WG委員（順天堂大学）、横山千恵（筑波大学附属病院）の4名が参加しました。

5月30日（木）は昼過ぎにカンボジアに到着し、スケジュール、医療機関への視察、ワークショップのプログラムなどについてミーティングを行いました。夜JAMT主催の夕食会にCAMTの会長、副会長、役員を招待し懇談しました。

5月31日（金）はNational Pediatric Hospital、Preah Kossamak Hospital、Khem International Polyclinic hospitalの3施設を訪問しました。

これらの施設には本事業のカンターパートが中心となり、検査機器の管理、内部精度管理、標準作業手順書のアップデートを行っていました。



National Pediatric Hospitalの臨床検査室の皆様とJAMTメンバー

今回初めて訪問したKhem International Polyclinicは、英語対応が可能な24時間体制の救急対応が整備されており、臨床検査室はコンパクトに整理され、効率的に運営されていると感じました。さらに、日本で研修を受けたカンボジアの学生が元気に臨床検査技師として働いている様子も確認でき、たいへん嬉しく思いました。

6月1日（土）は「Workshop of CAMT-JAMT: Focus on accuracy management with regard to morphology」

gy」が開催されました。8:00 から受付を開始、打ち合わせを済ませ、9:00に開会しました。

1. Welcome and Opening remarkとしてVansith CAMT会長と長沢光章 JAMT副会長から開会の挨拶が行われました。

2. Report activities of CAMTとしてVansith会長からは、2017年からのJAMTとの精度管理事業について報告されました。

講演内容は以下の1～7であり、JAMTからは微生物学的検査の外部精度評価について三澤成毅氏、一般検査学特に尿沈渣検査について横山千恵氏が講演しました。詳細は次ページの横山氏の報告をご覧ください。

カンボジアからは本事業のカウンターパートである臨床検査技師が精度管理の実施状況を講演しました。

以下は講演のタイトルです。



三澤成毅氏



横山千恵氏

JAMTからのスピーカー

1. Quality Improvement of Direct Smear Examination in Microbiology by Implementation of External Quality Assessment Program and Training in Microbiology Laboratory
- Dr. Shigeki Misawa
2. Clinical Usefulness of Urinary Sediment Examination
- Dr. Yokoyama Chie
3. Implement of Hematology Quality Control in Calmette Hospital and University of Health Sciences
- Dr. HOU Chantha
4. Implementation of Quality Management System in IS Premium Medical Laboratory, a Private Laboratory in Cambodia
- Dr. TOR Pety
5. Laboratory of Battambang Provincial Referral Hospital Activities
- Dr. Siek Sivhour
6. Currently Kampong Cham Hospital Laboratory Service During QMS-CHAS Implementation and Continual Quality Improvement
- Dr. Nhem Somary
7. AMR Surveillance Result in Three Years at NPH
- Dr. Srey Viso

講演後の討論では、カンボジアでの内部精度管理は、JAMTとの精度管理事業で研修を受けたチームが中



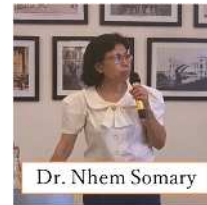
Dr. HOU Chantha



Dr. TOR Pety



Dr. Siek Sivhour



Dr. Nhem Somary



Dr. Srey Viso

CAMTからのスピーカー(本事業のカウンターパート)

心となり、研修会などを企画することで各施設で行うことができている。外部精度評価も取り組まなければならない課題であり、公的検査機関の臨床検査室では実施されているが、民間検査機関ではまだ不安が残る。カンボジアには品質を標準化する組織がないが、本事業で研修を受けた各チームが少しずつ活動を進めているとの意見、報告があった。Vansith会長からは、精度管理活動や技術指導など今後も継続した支援をお願いしたい旨、要請がありました。

今回のワークショップは短期間のプログラムでしたが、非常に密度の高い内容であり、両国の参加者にとって多くの学びを得る機会となりました。CAMTとJAMTの連携をさらに強化し、カンボジアにおける臨床検査の質の向上に貢献することが今後の目標です。

カンボジアとの国際協力事業は、両国の医療技術の発展にとって極めて重要な役割を果たしており、これからも支援と協力を継続することが大切であると考えます。



左: Vansith会長
右: 長沢副会長



ワークショップ参加者

代表理事副会長 長沢 光章
国際WG委員長 片山 博徳

カンボジア臨床検査技師会との形態検査に関する ワークショップ協力報告

2024年度の日本臨床衛生検査技師会の事業計画として「カンボジアでの次なるステップへの技術支援」が盛り込まれています。今回、カンボジア臨床検査技師会（Cambodian Association of Medical Technologist：CAMT、Vansith会長）からの要請により「形態検査を中心とした精度管理のフォローアップに関するワークショップ」に協力しました。



ワークショップ参加者集合写真

今回の当会（JAMT）側のメンバーは、長沢光章代表理事副会長（国際医療福祉大学）、片山博徳国際WG委員長（国際医療福祉大学）、三澤成毅 国際WG委員（順天堂大学）、横山千恵（筑波大学附属病院）の4名で、5月29日から6月3日の6日間（現地：実質4日間）訪問しました。

ワークショップは「Workshop of CAMT-JAMT」として6月1日に開催されました。

CAMT側からは、はじめにVansith CAMT会長から、JAMTが2017から2019年に行った「カンボジア王国における臨床検査の質の向上事業」の成果と、この事業で養成した生化学的検査、血液学的検査、微生物学的検査の各検査領域のカウンターパートが中心となってCAMTの学術集会やセミナーを開催していることが報告されました。次いで、5名のカウンターパートからカンボジアの各施設における精度管理の実情が報告されました。その中でJAMTが提供し支援した精度管理フォーマットやスタッフの力量評価を使用して日常の精度管理を行っていることが報告されました。このことから、この事業が確実にカンボジアの臨床検査技術の向上に根付いていると実感しました。

JAMT側からは外部精度評価による微生物学的検査の形態検査の管理（三澤）と尿沈渣検査の臨床的意義（横山）を講演しました。微生物学的検査の形態学的検査は、患者検体のGram染色による感染症の原因微生物の推定が初期治療の方針決定に極めて有用であり、その外部精度評価には顕微鏡写真を用いるのが実施容易であることが紹介されました。さらに検査室スタッフの教育訓練と力量評価は、訓練の内容とスケジュールを文書化し、訓練後に評価するプログラムが有用であることが強調されました。なお、このプログラムは本事業において提供し導入が進んでいます。

尿検査は、後述の病院訪問によって尿沈渣検査はほとんど行われていないことが分かりました。講演では、尿沈渣検査で尿中赤血球形態を分類することに

よって出血部位を推測することができ、血尿診断において重要な所見になることや、円柱の分類は腎機能の評価に有用であることが紹介されました。講演後には尿中赤血球形態に関する多くの質問がなされ、興味を持っていただくことができたものと実感しました。

今回のワークショップにはCAMTから合計30名以上の各病院の責任ある技師が参加し、非常に活発な討論もなされ盛会でした。

5月30日と31日は首都プノンペン市内の3施設（National Pediatric Hospital、Preah Kosamak Hospital、Khem International Polyclinic）を見学することができました。尿検査は、いずれの施設も試験紙による定性検査がメインであり（器機法1施設、他は目視法）、尿沈渣検査は行っているも尿路感染症の診断のためのようであり日本と比べると尿検査全体の意義が認識されていない印象を受けました。その他、形態学的検査である血液検査も機器によるCBCがメインで行われていました。血液塗抹標本による検査も行われていましたが、スライドガラス標本の枚数は検体数に比して少なく、機器に依存しているように感じました。

形態学的検査はトレーニングに加え、日常検査を通じた学習と経験の積み重ねが非常に大切です。日常検査の中で教育とトレーニングを両立するには限界があり、普及がなかなか進んでいないのではないかと感じました。

しかし、いずれの施設でも内部精度管理や標準作業手順書などの書類がしっかりと整備されていたので、臨床検査（室）の管理に対する意識は高いと思いました。したがって、形態的検査も教育訓練の方法を支援すれば検査能力は向上するものと考えられました。一方、尿沈渣検査を含む尿検査の普及には医師の尿検査に対する理解を啓蒙する必要であり、検査のニーズが高まることで検査の普及に繋がると考えます。

今までJAMTとCAMTが連携して行ってきた事業の成果を目の当たりにし、貴重な経験を得ることができました。

国外における臨床検査の技術協力は継続が極めて大切です。当会は今年度から執行体制が変わります。日本の優れた臨床検査技術をカンボジアの臨床検査技術の更なる向上に役立て、CAMTの発展を支援することは、JAMTにとっても意義あることと考えますので、是非今後も協力していただくことを希望いたします。

国際WG委員 三澤 成毅
横山 千恵



国立小児病院の臨床検査室
検体数、不適切検体数の割合、パニック値の報告数などが日別、月別に一覧できるように記録されている。

※記事内に記載の役職等は派遣当時のものです。

「病棟業務とタスク・シフト／シェア推進」講習会を開催

法改正により「タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」の受講が進む中で、「病院の理解」「教育体制」「技師のやる気」など施設ごとの様々な課題により、臨床検査技師の病棟業務への参画、タスク・シフト／シェアが進んでない施設も多いことから、進め方や始める下地作りの第一歩を支援するため、以下の研修会を開催いたします。是非、ご参加ください。

「病棟業務とタスク・シフト／シェア推進」講習会 オンデマンド編

テーマ： 病棟業務、タスク・シフト／シェア推進のための第一歩

会 期： 令和6年7月1日（月）～8月31日（土）

申込締切： 令和6年8月31日（土）

受講資格： 日臨技会員

受講料： 無料

点数付与： 生涯教育研修制度 基礎教科 20 点

受講方法： 日臨技会員専用ページより①事前参加申込⇒②申請参加申込済一覧 に表示される該当研修会の「講義受講」ボタンから受講を開始
※講習会の事前申し込みの際、病棟業務やタスク・シフト／シェアに関する質問事項を受け付けます。9月23日開催のZoom オンライン講習会編にて、質問に回答いたします。



「病棟業務とタスク・シフト／シェア推進」講習会 Zoom オンライン講習会編

テーマ： 病棟業務、タスク・シフト／シェア推進のための第一歩

※オンデマンド編のステップアップ版となります。

会 期： 令和6年9月23日（月） 9:30～16:30（昼休憩あり）

申込締切： 令和6年9月16日（月）

受講資格： 日臨技会員（オンデマンド編を未受講の方も受講できます）

受講料： 1,000円 ※クレジット決済のみ

点数付与： 生涯教育研修制度 基礎教科 20 点

受講方法： 日臨技会員専用ページより①事前参加申込⇒後日受講のためのZoom ID等をお知らせします

内 容： 講演だけでなく、オンデマンド編で受け付けた質問に回答します。また、所属施設規模ごとにグループ分けし、ディスカッションを行います。

（編集後記）令和6年6月22日（土）に開催された日臨技総会において、個人の賛助会員の廃止などの運用面で都合のあった内容を含めた日臨技の定款の改定が大きな目的として開催されました。ご存じのように定款は会の規則の大本となる取り決めであり、めったに変更するような提案はなされません。さらにそのような重要案件であることを位置づけるために、その承認にはすべての正会員のうち3分の2の出席（委任状出席も含めて）の上で過半数の承認が必要でした。ご理解いただき、参加のご意思をいただいた会員の皆様に感謝申し上げます。承認いただいた内容も含め、令和6・7年度の役員としてさらに気を引き締めて日臨技の運営に携わってまいりますので、よろしく願いいたします。

（深澤）